

郵便
報知新聞
第八百十四号

加賀国十四大區小區小川町の辺ふ日
蓮宗の一愚僧あり生来放蕩般若と
言とせ方便品の虚語八部酒と女の功
力より蓮華の鼻の陥落せし禮家の不
與のふも更へ異名と皇高上人と称せし
近郷金石の村に里小塚家あり一人の子息
今年十九才あり齋戒の臥し薬の功驗
非ざるに神社佛寺へ祈禱せし日更ふ快
氣に至らざる彼上合加持とて法
力神速のしと致の進むらむ其意ふ
任せ頼とて上人恭敬承引く護人と焚
立善椒と煙し邪教誦経しけれ病者を
忽ち逆上せし皇高上人に得る顔む古
龍豆生体頭せし持たる珠教にてあつ均く
病者の怒り起上と踏倒し踏死し発狂病と
衰症と命の邪欲の言僧の所業と是凡夫の
迷心を生ぜしん歎の教も亦恐るべし



大獲
門人
牙
六

南金十四番地
月岡米次郎画
小舟町三丁目
十番地熊谷庄七

